

多言語での共用が可能な介護職員向けテキストの開発～日・英・韓・越に着目して～

野田由佳里*¹⁾ 古川和稔¹⁾ 村上逸人²⁾ Donald Glen Patterson¹⁾ 落合克能¹⁾ 秋山恵美子¹⁾ 井川淳史¹⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学 ²⁾ 同朋大学

1. 目的

介護職員不足(厚生労働省 2015)が指摘され、人材確保は喫緊の課題である。方策として、EPA・技能研修制度など外国人介護労働者の受け入れが行われているが、質・量共に打開策となっていない。定着の阻害要因は自国語以外で学習する上に、文化・様式の違う環境で生活する二重の困難さがある。外国人介護労働者向けのテキストでは、日本語にふり仮名を振ったテキスト(静岡県 2016)があるが、母国語に照らし合わせて学修できるテキストは存在しない。また翻訳ツールはあるものの、共用可能なテキスト作成に着目した研究は存在しない。そこで本研究では「1. 知識・2. 技術・3. 文化・様式の理解」という学修支援ツールとしてのテキスト内容に関する情報収集から必要な要素を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

(1) インタビュー調査(研究倫理承認番号 17022)

(2) 研究対象: 特別養護老人ホームに勤務する外国人介護労働者の受け入れ責任者・国内にある特別養護老人ホームに勤務する外国人労働者・介護経験及び留学経験のある研究者

3. 結果

(1) Aさん(40代・女性・ベトナム国出身・勤務先: 特別養護老人ホーム F 介護職員・在留資格: その他(日本人男性と結婚)・調査日時: 2017年7月31日

(2) Bさん(50代・女性・勤務先: 特別養護老人ホーム F 外国人介護労働者の受け入れ責任者)同調査日

(3) Cさん(30代・女性・ベトナム国出身・勤務先: 短期大学教員) 調査日時: 2017年9月11日

(4) Dさん(40代・女性・勤務先: 特別養護老人ホーム G 外国人介護労働者の受け入れ責任者) 2017年11月6日

(5) Eさん(40代・男性・韓国出身・勤務先: 大学教員) 調査日時: 2018年1月19日

録音データから逐語録を作成し、類似性を確認しながら、存在する概念を網羅的に築き上げていくオープンコーディングを実施した。ラベルを集め、相違点、共通点、類似点について統合、比較検討することによって分類し、サブカテゴリ化。更にサブカテゴリを統合、比較、再編を繰り返しながら分類し、カテゴリ化した。

カテゴリの一部を紹介する。【生活や文化・習慣の違いから生じる問題】【関係性の変化による対応の違い】

【言葉遣いの難しさ】【仕事をする上での困難】【専門職の捉え方】【技術移転という考え方】等

4. 考察

技能実習生など外国人介護労働者の存在を労働力の確保だけでなく、あくまでも技能・技術・知識の移転を図る本来目的が果たすためには諸問題の存在が明らかになった。特に介護現場への定着には対利用者・対外国人労働者・対日本人介護労働者に対して分けて介入することの必要性が示唆された。本研究の目的であった母国語のテキスト作成の必要性は入国前の事前学習時期に必要であるが、入国後においては専ら日本語テキストの利用が有効であることが明らかになった点が非常に興味深い結果となった。

5. 今後の課題・謝辞

外国人介護労働者の定着には個々の姿勢・受け入れ法人の体制に大きく影響されることが示唆された。職能団体や行政への積極的介入が今後の課題である。また、ご協力頂いた事業者・留学生・外国人介護労働者に感謝申し上げます。 *論文発表 聖隷クリストファー社会福祉学部紀要論文, 2018年月発行予定